



(表面)



(裏面)

大内賞メダルの解説

大内賞本体のメダルは、純銀製の直径約7センチの大きさである。メダルの原型は、昭和28（1953）年、当時東京芸術大学教授で芸術院会員の海野清氏が作られ、それをもとに当時助教授をしておられた山脇洋二氏が鑄造された。海野、山脇両氏とも既に亡くなられたが、その後、メダルの製作は、山脇氏の遺族の関係会社をお願いしている。

メダルの表面には、大内先生の肖像が彫ってあり、大内先生は肖像写真の撮影、原型の製作のために上野の杜に何回か足を運ばれたということである。メダルの裏面には、大内賞の表示と大内先生自筆の書をもとにした「統計天下」の四文字が彫られている。